

今回より連載で、半世紀を越える歴史のブエノスアイレス日本人学校の「成り立ちから発展そして近況」を企画しました。お楽しみ頂けたら幸いです。第一回と第二回は「成り立ちと学校生活」を第一期卒業生の宍戸和郎氏（元日本輸出入銀行首席駐在員）にお願いしました。

## ブエノスアイレス日本人学校 （その1 成り立ち）

宍戸和郎

ブエノスアイレスに日本人学校が出来る前には、毎週土曜日に国語と算数の補修授業が行われていたとの記録があります。1964年11月から始まったそうで、留学生や邦人有志の方が講師を買って出っていたようです。その内、日本人学校設置の機運が高まり、1968年1月、国に予算要求を行っています。

予算が認められ、ブエノスアイレス日本人学校が、1968年10月に開校しました。当初は、「在亜日本大使館附属日本人学校」と呼ばれていました（1971年2月に現名称に改称）。ロス・インカス通り（Av. De Los Incas）にある民家を借りて、生徒18人（小学校13人、中学校5人）、教員4人による小ぢんまりとしたスタートでした。

その後、校舎はオラサバル（Av. Olazábal）、スペリ（Superí）への移転を経て、1979年2月に現在のラ・パンパ（La Pampa）に落ち着きました。余談ですが、このラ・パンパ校舎も以前は民家で、アルゼンチンで初めて五つ子が生まれたご家族が住んでおられたのをご存知の方も多くいらっしゃるのではと推察します。

ロス・インカス校舎の校庭



オラサバル校舎



筆者は、開校から半年後の、1969年3月に初めてアルゼンチンの土を踏みました。一足先に赴任した商社マンの父を、母子3人で追いかけて来たわけです。翌月の新学期から筆者が中3、弟が中1に編入しました。以下、当時の様子など、思い出すままに綴ってみました。半世紀以上前のことなので思い違いがあるかも知れません。ご容赦下さい。



スペリ校舎



ラ・パンパ校舎

### <制服でない制服の話>

服装については、特に学校側から指示はなかったと記憶していますが、男子は全員ネクタイを絞め、ジャケットを着て通学していました。小学1年生まで全員が、です。筆者兄弟もこれに倣いました。

日本人学校が出来るまでは、みんな現地の学校に行かざるを得なかったわけですが、どの



一番上が筆者 右端は富島先生（初代校長奥様）

学校にもネクタイ着用式の制服があったようです。日本人学校に通うようになって、それまでの制服をそのまま着続けていた、という経緯のようです。女子の方も、かつての制服を着ている子がかなりいました。

学校毎にデザインはまちまちなのですが、全体として、日本人学校の制服はなくとも、制服があるかのような雰囲気醸し出していたことを覚えています。

### <Do it yourself>

開校間もないので設備類はいろいろ不足していました。多分、買おうにも、あまり街では売っていなかったし、予算も潤沢ではなかったのでしょう。半ば工作の時間という感じで、何でも手作りしてやろうという雰囲気でした。その中でも特に印象に残った例を挙げてみます。

### <バレーボールのネット>

ネットを張るポールには、組立式鉄棒の支柱を流用しました。ネットの方は、店でジャガイモや玉葱を入れて置く網袋を、家から持ち寄って凧糸のようなもので縫い合せてみました（当時は、スーパーマーケットはまだ見られず、皆一般の商店で買い物をしていました）。しかし、

うまくボールを止められず、見た目もかなり悪いので、採用は断念となりました。

次に考えたのは、洗濯ロープの利用でした。これを何本か横に平行に張り、その間を縦糸（縦ロープ）で結んでいきました。縦横の交差点に結び目を作りながら編んでいく訳です。これはうまく行き、バレーボールができるようになりました。

#### <砂場>

小学校低学年のために砂場が欲しい、という話しになりました。穴は割と簡単に掘れたので、後は砂を入れれば完成。と、誰もそう思ったのですが、砂を運んできた業者のダンプ・トラックが庭に入れないという不測の事態が起きました。

かなり大きな、背の高い門だったのですが、荷台がつかえました。関係者が鳩首協議しても解決策がなく、仕方がないので、その場に砂をザーと下ろして、ダンプはサッサと帰ってしまいました。砂の山は、門の中央に鎮座していて、門が閉められません。歩道にもはみ出していますので、夕方までに何とかしなければなりません。

授業などしている場合ではなく、非常招集がかかり、先生・生徒総出で砂運びとなりました。しかし、道具は何もないのです。手ですくって、というわけには行きません。誰かが、教室のクズかごを利用することを思いつきました。クズかごに砂を詰めて、砂場の穴まで運ぶのですが、これが重いのです！クズかご一杯に砂を詰めると重くて、小学生の手に余ります。しかし、小さい子達は頑張りました。自分達の砂場を作るんだと、一生懸命でした。先生方や上級生の合間を縫うようにして、顔を真っ赤にして、ウンウン唸りながら、何度も往復しました。

何時頃片付いたか覚えていません。砂の重みで、クズかごは一つ残らず、へしゃげてしまいました。生徒達は泥だらけで帰宅したので、親御さん達は、学校でなにがあったのかと驚いたことでしょう。でも、こうして、砂場遊びができるようになりました。



左の写真はロス・インカス校舎の校庭清掃中の筆者（左から2番目）と頼もしい中学部の仲間たちです。懐かしさがこみ上げます。

今回はここまでとし、次回も日本では味わえなかった学校生活をご披露させていただきます。

（シシドカズロウ：当協会業務執行理事）